

CLCからしだね書店便り

2025 October 10
no.58

今月のご案内

- ① 連載「歴史と対話し歴史に学ぶ」第10回
- ② 「あの原発事故から何を学んだのか」松谷彰夫
「からしだね書店便り」の読者の皆様へ
- ③ からしだね CLC 地下古書部より
- ④ いのちのことは社 オリーブス おすすめ情報
- ⑤ わたしの遺言 第四回
関西学院大学神学部専任講師 森本 典子

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。ドリンクを片手に、本をお楽しみください。
- ⑤ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑥ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & カフェ トライアングル

営業時間 11:00-17:00

定休日 日曜日と年末年始（※祝日も営業）
毎月第3木曜日は書店のみ営業



森下 有 (高一)

おじさんはドストエフスキーをいつ頃から読んだのですか。

山田 はじめ (三七才)

父の書棚に、米川正夫訳の背表紙が濃い小豆色の全集が並んでいて、中学生の頃から何となく、その名前を知っていました。ドストエフスキーのことを聞くようになるのは、姉さんの影響です。姉さんはすでに高校時代に、その米川全集で後期の作品もかなり読んでいて、大学はロシア文学を専攻するようになり、卒論もドストエフスキーでした。大学時代は小沼文彦訳をよく使っていたようです。

有

おじさんはかあさんの卒論を読んだそうですね。

はじめ

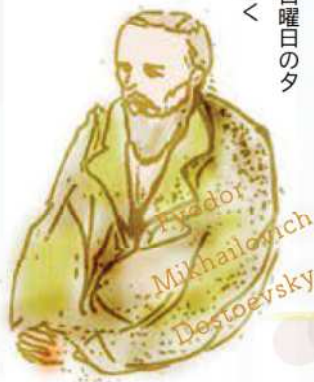
今も、そのコピーをもっています。以前、姉さんが高校生の僕を大学の読書会に引つ張り出してくれたことを話しましたね。それはドストエフスキーの影響もあるようです。

有

どういふことですか。興味深そうですね。

はじめ

僕は小学校卒業頃まで、日曜日の夕方頃になると体の具合が悪くなって、月曜日は休むような生活が続いていました。母は僕の内気な性格をとて心配していましたが、



僕が幼稚園の頃亡くなりました。母は姉さんによく「はじめをよろしくね」と言っていたそうです。元々僕と姉さんの仲はよかったのですが、母が死んでからは、いつそ僕のことを気にかけてくれました。高校生になると、学校には通っていないものの、さらに自分の中に閉じこもるようになったので、僕が「死産児」になつてはいけな心配して、強引に大学の読書会に誘いました。

有

「死産児」て何ですか。余り聞いたことのない言葉ですが。

はじめ

ドストエフスキーの『地下室の手記』に出て来る言葉です。主人公は自分のことを次のように語っています。

「ほくらは、人間であることをさえずらずわしく思っている。ほんものの、自分自身の肉体と血をもった人間であることをさえた。…ほくらは死産児だ、しかも、もつと昔から、生きた父親から生まれることをやめてしまい、それがいよいよ氣に入っている始末だ。」

主人公は一八二四年生まれの四〇才、元公務員で、親戚の遺産が入ったので退職し、今は無職。名前は記されていません。小説は彼の手記という形式で、第一部は現在の彼の毒のある独白。第二部は二四才と二六才の時の人間関係を述べています。特にリーザという女性との係わりは、自意識の塊の主人公の悲痛な叫びで、読んでいて痛ましくなります。

有

そのような人物とおじさんはどう関係するのですか？

はじめ
姉さんによると、この「生きた父親から生まれることをやめた死産児」の特徴は二つあります。一つは「生きた生活からの逃避」です。自意識過剰で、現実の生活を嫌悪し、被害者意識をもち、とても自虐的です。それが快楽にすらなっています。そして何よりも、人との対等な関係をもてず、人を愛することができません。

有

何と言ったらいいのか……

はじめ

もちろん、僕と彼とは全く違っています。ただ、人と「コミュニケーション」が取れない点と自分の観念の中に閉じ籠もるきらいがあることは共通しています。姉さんはそのことを心配して、強引に読書会に連れて行っただと思ひます。

有

「死産児」のもつ二つの特徴は何ですか？

はじめ

物事をもつば合理的に有益性から考える人たちへの強烈な抗議です。彼らは、人類にその正常な真の利益を説き、各自が自己の利益を理性にそつて追求していけば社会の益になり、人類はたちまち善良で高潔な存在になる、と主張する理性的エゴイストです。また、悪は個人にあるのではなく環境や社会の機構にある、売春婦などは体をはつて社会の矛盾に

抗議しているのだ、という人たちが現れます。ツルゲーネフという作家は『地下室の手記』の二年前、『父と子』という小説で、「二掛ける二は四」という科学的合理的思考がすべてだという人物を登場させています。彼らは共通してユートピア的社会主義の傾向を有しているとドストエフスキーは見えています。

このような人たちに對し、「二二が四だけが幅をきかすようになったら、もう自分の意志も冀もないじゃないか？二掛ける二は、僕の意志なんかなくなつて、やはり四だ。自分の意志がそんなものであつてたまるものか」と「死産児」は嗤みついたので。そのような理性万能効率万能の社会だと人間は機械になり、俺の個性も自由もどうなるのだ、というわけです。

有

彼だったら、AIなんかに、嗤みつきそうですね。ただ、一見個性を尊重しているようにだけ、単に鬱憤をはらしているだけのようにも感じます。

はじめ

問題は、「死産児」のそのような理性と効率万能を批判する主張の重要性を認めつつも、それが本当に自由をもたらすかという点です。ドストエフスキーは『地下室の手記』を書いた後、『罪と罰』『白痴』『悪霊』『未成年』『カラマーゾフの兄弟』の五つの長編小説を書きます。その登場人物の多くは、一八四〇年代生まれです。その中にユートピア的社会主

ドストエフスキーは一八五四年に発表した『地下室の手記』で「死産児」という新しい人間類型を登場させます。今回は、この「死産児」が以後の長編小説を読む上でいかに重要かがテーマとなります。



義者と死産児の人物を登場させ、彼らの矛盾を暴いていきます。『罪と罰』のラスコーリニコフや、『悪霊』のスタヴローギン、『カラマーゾフの兄弟』のイワンなどは「死産児」の典型です。イワンは、子供の虐待される例を集めて、その悲惨な状況を前提として、そのような世界を造った神は絶対認められない、神はいないなら「すべては許される」と主張しました。日本ではイワンを評価する人々も多いようです。しかし彼は、現実の一人一人の子供に対して共感を抱いているわけではありません。その点が兄弟のドミートリイやアリョーシャと全く異なります。姉さんは彼が人類を愛せても、個々人を愛することできない「死産児」であることを強調していました。イワン自身「人を愛するためには、相手が姿を隠してくれなきゃだめだ。相手が顔を見せたとなん、愛は消えてしまふ」とアリョーシャに語っています。「イワンはだれのことでも愛してやせん、…あれは宙に舞い上がったほこりみたいなもんさ、…風が吹きゃ、埃とともに消えるんだ」という父フョードルの評価はおそらく正しいだろうと思います。

「死産児」に共通しているのは、真の「生きた父親」をもたなかったことです。ラスコーリニコフには実の父も精神上的の父も登場しません。スタヴローギンの精神的出自は古典的自由主義者のステパンですが、ステパン自身が生きた現実か



ら遊離した「月足らずな」知識人でした。イワンの精神的出自を示すのは、幻影として現れる彼の分身の「悪魔」ですが、自称農奴制時代の居候的知識人として現れます。

「死産児」を抜け出すためには、真の父親を見出さねばならない、というのがドストフスキーの考えたと思います。アリョーシャはゾシマ長老と出会いました。『未成年』のテーマは真の父親探しです。アルカージイはマカール老人にそれを見出しました。ここから彼の新しい歩みが始まります。

有一..

やっぱり人と人との出会いが大切ですね。いくら立派な思想を説き、個性の大切さを言っても、他の人を認めないなら、自分の個としての価値も自由もないですね。ただ、今日の話はかなり抽象的でよく理解できていません。次は具体的な作品を通して話して下さい。何を讀んでおくといいですか。

はじめ..

姉さんがもつとも関心をもったのは『悪霊』と『未成年』です。今度『悪霊』を具体的に検討しましょう。興味深いのは、対立するユートピア的社会主义者と「死産児」がともに、ニヒリズムとテロに陥っていくことを指摘している点です。

(続く)

注：『地下室の手記』は江川卓訳、『カラマーゾフの兄弟』は原卓也訳を使用。

中谷博幸(なかにひろゆき)

1953年奈良県生まれ。香川大学名誉教授。主な研究対象はヨーロッパ文化史、特にドイツ近世キリスト教文化。



あの原発事故から何を学んだのか 「からしだね書店便り」の読者の皆様へ

松谷 彰夫

今日は、東京電力第一原子力発電所から、直線距離で約60キロ離れた福島市から、現在の私の思いを幾つかつづらせていただきます。あの原発事故から、もう14年半が過ぎました。福島の様子が報じられることも少なくなりました。そのため大方の問題は解決済みで、新たな一歩を踏み出しているだろう、と想像されている方もおられることでしょう。しかし現状は決してそのようなものではありません。事故直後、政府が避難指示など緊急時の応急対策として出した「原子力緊急事態宣言」は、現在でも尚解除されず継続されているのです。そのため、避難指示が解除されていない帰還困難区域もあれば、被爆限度基準が変更されて、住民の帰還がすすめられている地域もあります。

○被災地の現状

福島第一原子力発電所は、太平洋の海沿いの町・大熊町と双葉町の境、その両方の地にまたがる形で設置されていました。二つの町が誘致合戦に上手く乗せられて競い合うと同時に、原発誘致に伴う「利益」が、一方の町だけに偏らないためです。まずその二つの町について(少し煩わしいですが)幾つかの数字をあげます。

2011年3月、原発事故にともない出された命令により、両町の全住民は県内外への避難を余儀なくされました。当時の大熊町の人口は、11,505人でした。それが現在の町内居住者は、(8月末現在で)全部合わせて1,047人、かつての1割にも届いてい

ないのです。しかもそのうち、元々の町民で帰還した人は、わずか319人、2.7%にすぎません。他の人たちは5年前居住制限が解除されてから、新たに移住してきた人たちです。むしろ、そうした新規移住者の方が多い状況なのです。同様に双葉町も、原発事故前の人口は6,939人、現在の居住者は180人、うち帰還者は100人弱、わずか1.4%にすぎません。若い人を中心に、故郷には戻らないと決めている人が半数を超えています。14年半の間に、生活基盤がすでに避難地にできたり、いくら戻りたいと願っても未だに病院、公共交通機関など社会基盤の復旧が進まないのでは戻りようがないのです。いずれにしろ、かつての住民のわずか2.7%や1.4%の帰還しか果たしていない現状は、「復興」とか「再生」にはほど遠い状態です。この数字が示すことは、原発事故というものはいったん起こってしまったら、そこに住んでいた人々、その暮らし、故郷の自然も含めた地域の営み、それらすべてを根こそぎ奪い去ってしまうということなのです。

○復興をどの視点から考えるのか

よく被災地現場に足を運んで、自分の目と耳でこうした事実を確かめなければならぬと言われます。しかし、事実とは何でしょう。現状を見聞きするだけではなく、そこで営まれていた人々の暮らしまで遡って理解することは極めて難しいことのように思われます。たとえば福島県は、新採用職員をまず震災被災地に派遣して、そこで

自分の肌で感じてもらうと同時に、人々の要望を聞き取れる素養を身につけてもらう試みをしています。良い試みだと思います。しかし、被災地に赴任した若い職員たちが、そこで誰の話に耳を傾け、誰に共鳴するのかです。原発被災地には先述したように、居住制限解除後に移住してきた人々が多くおられます。その方々の一般的な姿勢は非常に前向きだと言っているでしょう。すべてを失ってしまった町のために、自分にできることはないか、ただ過去を懐かしむだけではなく、新たな町作りのために貢献できればと願ってやっています。移住後の年数が比較的新しいこともあるでしょう。これらの夢を描いて元氣な方も多く見られます。しばしばマスコミでも取り上げられます。一方、どうしても故郷をこのままにはしておけないと帰還された元々の住民の方もいます。昔の姿にほんの少しでも近づきたい。その一歩に自分が成ればと願っています。しかし、いっこうに後に続く人が現れない事態に突き当たります。帰還者数に変化が見られないまま数年が過ぎます。かつての町の姿、人々との密な触れあいを知るだけになんともやるせない。次第に氣力も希望も失いかけていく。元住民の1.4%、2.7%の帰還では如何ともしようがないのです。

さてくだんの新採用県職員はどこから物事を見つめるのでしょうか。たまたまテレビニュースの「コマで」「新しい町作りのために頑張っている人たちから勇氣をもらいました。私もこれから福島県民通（原発があった地域）のため、あの人たちと一緒に頑張っていきたい」と話し、それを聞いた知事が「それは素晴らしい。是非頑張ってください」と励ましているのを見ました。一概に「それは間違いだ、おかしい」とは言えないでしょう。しかし、地元住民が味わった塗炭の苦しみ、そして今も尚解決の見通しがまるで立たないまま、いたずらに時間だけが過ぎていく現状のむなしさ、それらすべてはどうなるのでしょうか。はなはだ疑問です。

〇何を学んだというのか

その最高裁判決から19年後の2011年3月11日、国と東京電力が「理論的には起こり得るかも知れないが、現実には絶対に起こらない」と言い続けてきた原子力発電所が爆発しました。以来、国（当時の民主党政権）は「可能な限り（原発への）依存度を低減」するとのエネルギー政策を打ち出しました。政権復帰を果たした自民党政権もしばらくは何も言いませんでした。しかしどうしたことでしょ。爆発事故からわずか14年、現政権は何事もなかったかのように再稼働の加速、古い原発の運転延長、新型炉への建て替えによって、原発を「最大限に活用する」とのエネルギー政策への大転換を打ち出したのです。理由は、「電力エネルギーの安定供給」と「GX（グリーン・トランスフォーメーション）・脱炭素化への対応だそうです。第4次中東戦争に伴うエネルギー危機、温室効果ガスを排出する化石燃料からの脱却」。50年も前に聞いていたうたい文句と同じでは？ いったいあの原発事故から何を学んだのでしょうか。福島第一原発の廃炉計画など全く目的が立っていないというのに。さらに、原発建設当初からの核心的問題である使用済み核燃料や放射性廃棄物「核のゴミ」の処理をどうするのか。何も解決されていません。世界有数の地震大国にあって、負の遺産を増やし続けて、将来の世代にどのような顔向けができるのでしょうか。また事故が起こるまでは「絶対安全」と言い続けるのでしょうか。

まづ先に あきお 元高校教師、日本キリスト教会福島伝道所
会員、著書に「裁かれなかった原発神話―福島第一原発訴訟の
記録」（かもがわ出版 1800円＋税 2021年）がある。



からしだね書店に
在庫あります

CLCからしだね
地下古書部から

古いカトリック教会では自分で聖書を読むと間違った

解釈をするというので、聖書を読むことは推奨されていませんでした。しかし、なんといっても神の言葉である聖書を読むことは重要です。

その聖書を解釈するにはどうしたらいいでしょうか。聖書辞典、聖書ガイドブック、聖書註解、聖書講解、コンコルダンスなど多くのものが出版されています。

その中で、推しのもは、なんといっても「新聖書註解」です。出版は古いのですが、日本の聖書学者による註解書でこれ以上のものは出版されていません。

現在、どこの教団、教派も2割の教会が無牧師状態です。信徒の方々も説教をすることもあるでしょう。そのときに聖書を調べるのに、このシリーズは欠かせないものといっているでしょう。

【書店ボランティア 水野 健】



〇なぜ原発を受け入れたのか

ではどうして、そのような原発を地元は受け入れてしまったのでしょうか。東京電力第一原発は1967年に建設が開始されました。高度経済成長の中で見込まれる電力需要の急伸長を原発に求める国策が根本にありました。当時、立地場所の大熊町・双葉町は人口減少の一途をたどる過疎の町でした。冬場には「父ちゃん、あんちゃん」を出稼ぎに送り出さなければならなかった家も多くありました。そこに原発建設という働き場所ができるのです。国も東京電力も福島県も、「原発は絶対に安全です」「安上がりで、温室効果ガスも排出しない地球に優しい施設です」と繰り返しました。更に地元の町はもとより隣接町村にも、立地促進対策のための交付金がばらまかれました。一時的でしたが固定資産税（地方税）も町には入りましました。こうした中で町長も町議会も「生き延びる道はこれしかない」と原発大歓迎に動いたのです。

しかし隣町に第二原発が設置されることになる1973年ごろになると、ようやく「これで本当にいいのか」と疑問を抱く人々が少数ではありましたが現れました。その多くは地元の高校に勤める教師たちでした。建設予定地の地主たちが土地を売り渡し、住民の多くも建設作業に従事する中で、残された道は「第二原発設置許可取り消し」を求める行政訴訟を起こすことだけでした。「先生らは気楽でいいな。吾々に原発反対！なんて言うっていられるんだから」との声を耳にしなげらも、福島地裁、仙台高裁、最高裁とあわせて17年9ヶ月に及ぶ闘いでした。いずれも原告敗訴で終わりました。

（この辺の事情を書いたのが地裁「裁かれなかった原発神話」です。是非手にとってみてください。）



楽しくチョコチョコキ！聖書こうさくキット

切ったり貼ったり、24種類の工作で楽しく遊べるキットです。



脳活にもおすすめです！

ハサミ、のり、セロテープやカッターを使って工作して遊ぶ知育教材です。全てが聖書のお話のシーンやクリスチャン生活に関する工作なので、聖書の理解を深めたり、信仰の成長を促す助けになります。クリスマスやイースター、誕生日、感謝など、さまざまなシーンに合うように24種類の工作が作れます。

デザイナー K&Sより

楽しくチョコチョコキ！ 聖書こうさくキット

500288 ¥1,000 税込

- リビングバイブル
- サイズ／A4判
- オールカラー
- 24の工作を収録
- 材質／紙
- 日本製
- イラスト／みやしたはんな

10月におすすめ新商品のご紹介！

切り取ってPOPとしてもご使用いただけます

入荷済

星野富弘

31枚の詩画日めくり
「どうしても必要なものはただひとつ」

星野富弘さんの31枚の詩画を毎日味わうことができる
卓上タイプの日めくりです。



31作品
収録

スタンドタイプ
なのでどこにでも
置けます



各ページの下に日にちと
花の名前が入っています

4 温室の中の自然 デンシロビウム



スタンド部分に名入れができます。(有料)

押しpoint

どこにでも置けるのでお見舞いにも最適です。また1日のうちでも、キッチン、寝室などに移動可能。いつも身近でじっくりと星野さんの詩と絵を味わってください。

デザイナー Tより

星野富弘 31枚の詩画日めくり
「どうしても必要なものはただひとつ」

500216 ¥1,760 税込

- サイズ／タテ 19×ヨコ 14cm(リング綴じ)、
- スタンド：高さ 21cm
- 16枚綴り(31作品)
- 卓上タイプ
- 材質／本体：紙、リング：金属
- 日本製
- 詩画／星野富弘

ちよつと早めの

わたしの遺言

森本 典子

チベットの天空葬の話を読んだことがある。少しばかりグロテスクなので、ここに詳細を書くことができない。でも、そのテキストを読んだ後「ああ、こんな風に弔ってもらいたいな」と思った。遺体は、山の上に運ばれ、僧侶がお経を唱える。鳥のために遺体が整えられ、僧侶は少しばかり軽いステップを踏んでダンスをし、あとは鳥に任せるのだそう。

随分と前に読んだテキストなので、これが事実

かどうかはわからない。改めて調べてみると、私が聞いた話とは少し違う風習もあるようだ。いずれにせよ、天空葬について読んだ当時の私は、死を身近に感じていたわけではないが、自分の体が自然の循環の中に戻っていくということが美しく感じられた。人間も自然の循環の一部であり、自然と共に生き、自然に返ることができればどんなにいいだろうと思う。

私が滞在したことのあるデンマークの葬儀で

は、牧師が棺の上に土をかけながら「あなたは土から来て、土になり、土から復活する」と唱える。土葬の場合は、棺を地中に降ろした後に同じ儀礼が行われる。

産業革命以降、人間はより豊かでより便利な生活を目指してきた。おそらく、最初はすべての人間が今よりも良い暮らしができるようにと考えられていたはずだ。しかし、貧富の差は開くばかり。人間は、命のあるものすべてが神の創造によるもので、共存することが求められているということを知ってしまったかのようだ。

人は土に戻る。神から創られたときと同じように自然の循環の中に戻っていく。人間が作り上げた栄華を追い求め、失うことをおびえて生きるより、神の創造による自然を被造物の一部として堪能し、「あー、楽しかった」と感謝して人生を閉じることができたら、それは天国への第一歩なのだろう。

だからと言って、バブルの時期に青春を謳歌した私が「自然に戻ろう」と言うのはなんともおこがましい。還暦を過ぎ、自分の生活を振り返りながら、次世代の人々に遺す言葉などないとも思う。何か言うなら「便利で快適な生活を求めたために社会や地球がこんなになってしまった。私は、ちよつとは頑張ったけど、結局はその片棒を担いだ。そのつけを回すことになってごめんなさい」だろう。

そして、更に言葉を遺すなら「時には、スマホやPCから離れて、川べりや里山を散歩しながら、自然の音に耳を傾けてはどうだろう」「旅をして、知らない人や文化に直接であってみたいかが、だろうか。画面を通してではなく、具体的な何かに触れることは人生を豊かにするし、何より面白くて楽しい。」

もりもとのりこ

関西学院大学神学部専任講師
バザールカフェボランティア
日本福音ルーテル賀茂川教会

古書献本のお願

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただけるとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。)

百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌、
自分史・教会の記念誌などは
受け付けておりません

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

【本の送り先】

住所: 〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
宛先: CLC からしだね書店 献本係 電話: 075-574-1001 FAX: 075-574-0025
Mail: clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

柴田珠江様、伊藤容子様、
山本和美様、吉本浩子様、
今本幸乃様、栗原邦子様、
(順不同)

9月の古書の収益は 60,055 円でした。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店便りにご紹介させていただきます。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集を終えて...

◆10月に入っても、夏が続く中で、クリスマスの準備が続いていきます。定期刊行物をお届けする教会や個人のお客様には、年間を通して用いることができる総合カタログをお届けしますので、よろしくお願いいたします。◆「あの原発事故から何を学んだのか」と問われた時に、私はなんと答えるのだろうかと考え込んでしまいます。こうして、問い続けること、事あるごとに意識づけることがとても大事だと思います。◆日本初の女性総理大臣が誕生しそうな気配です。トップが女性になったからと言って、女性にとって暮らしやすい社会に近づくかという...ガラスの天井を破った後、突き破った本人がジェンダー平等を後退させる可能性もなきにしもあらず。日本が、自由と民主主義を後退させることがないようにと祈ります。そして、戦前のような内心の自由が脅かされる世の中になりませんようにと、祈ります。【店長】

編集・発行: 社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援B型事業所からしだねワークス
CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp



CLCからしだね書店便りの
バックナンバーはこちらから